# 令和８年度

# 岐阜県スマート農業推進協議会

# 議事要旨

開催日時：令和８年９月２８日

開催場所：岐阜県庁舎　２０階　会議室

# 令和８年度　岐阜県スマート農業推進協議会　議事要旨

１　開催日時：令和８年８月２８日（月）　１３：３０～１５：００

２　開催場所：岐阜県庁　２０階　２００４会議室

３　出席者：別添「出席者名簿」のとおり

４　内容

（１）　令和８年度のスマート農業の取組状況について（資料１）

＜事務局から説明＞

【主な質疑・意見等】

嶋津委員　経営・生産管理システムは日常的に生産者使っていると思う。どういったアプリ、製品で使用者の感想や使用後のフィードバックあれば教えてもらいたい。

（事務局）代表的なものはクボタの KSAS のような水田１枚ごとに登録するシステム。大規模な農家が筆ごとの作業管理に利用している。現状県の普及指導員によるフィードバックができていないため、普及員を DX 指導者研修により、生産者に寄り添いデータを読み取れる人材を育成する。

山口委員　スマート農業技術導入経営体数について、実数だけでなく、県全体の経営体数に対する割合や１経営体に何台機械が入っているか導入率を示すべき。

嶋津委員　補足、経営体の規模別にまとめると導入機械の傾向、無理して導入しているかわかるのではないか。

（事務局）実数値のみだと実態を示しているとは限らない。ご指摘のとおり示していけたらと思う。

松下委員　農業未経験者向け研修はこれから農業に参画したい人対象なので AR 体験ではなく、岐阜県で農業したい人の特徴・傾向を調べたうえで、岐阜で農業するうえでの進め方等を伝える研修にしては。

（事務局）研修の趣旨は農業と接点のない人に前向きな印象を持ってもらうこと。ただし、実機を使うと危険が伴うため、安全かつほ場の準備が不要な AR 技術でドローン操作や畝を直線にたてるよう補助する機能を体験し、スマート農業を知ってもらう。

松下委員　現状は全国どこでもの内容では。岐阜といえばトマトやいちご、これらの知見をアピールすれば岐阜で就農したい人を拾えるのでは。

（事務局）現状岐阜県独自の研修にはできていない。ご指摘のとおり検討したい。

座光寺委員　AI を活用する計画だが、岐阜県の特色を組み込んでいるのか、これからなのか。

（事務局）これからになる。データ活用イノベーション事業を活用し補助していく。

座光寺委員　データ活用イノベーション事業は環境・生育データの蓄積できるアプリを新たに用意する事業か。

（事務局）既存のアプリ、システムについても補助できる。新たに作るだけの事業というわけではない。

山田委員　高性能コンバインとはどういったものか。

（事務局）収量・食味コンバインなど。

山田委員　生産方式革新実施計画認定者の認定者どこを見ればわかるのか。

（事務局）東海地域に関しては東海農政局 HP にて確認可能。

山田委員　県としての PR はしていないのか。成果が上がっているのであれば PR しては。なかなか国の HP はみない。

（事務局）大々的な PR はしていない。このことについては検討する。

**（２）スマート農業技術等の社会実装に向けたロードマップイメージ(案)（資料２）**

＜事務局から説明＞

【主な質疑・意見等】

松下委員　農家さんが製品を買って研究するのか、岐阜ならではの問題に対して大学教授とともに対応するのか、方向性とテーマを絞らなければまとまらないのでは。実際に足を運んでくれる分野の違う大学教授を全国集めてみては。

（事務局）我々としても現場の問題把握と大学の研究内容をすり合わせる必要があると考えている。進め方は今後の予算要求の際に委員に相談しながら検討。現場は儲かる農業が最優先。現状の施設栽培棟はコストが高いため、解決に向けて進められたらと考えている

山口委員　岐阜らしさがない。モデル農家（平野部・中山間部で各 1～2 箇所）を設定し、技術やデータを集中投下して成果を可視化しては。データの吸上げ、開発後の普及には県が動いてもらう必要がある。AI 技術は更新が早いため、情報収集（X 等）をしないと企業が先に解決し、県費が無駄になる可能性も。

（事務局）平野部・中山間部で課題を整理し、進め方を考えていく。

嶋津委員　担い手不足が進んでいるため、現状ソフトよりハードがニーズある。そのため、担い手不足と鳥獣害被害が顕著な中山間地に特化したスマート農業技術の開発が岐阜県らしさにつながるのではないか。

（事務局）整理してご相談させていただきたい。

座光寺委員　愛知の例、スマート農業技術にかかわらず、現場が楽に動けるツールづくりがよいのでは。規模が小さい農家はシステムや機械の維持費に大きな負担がかかる、導入後の補助等考えていただきたい。

（事務局）現地で回る技術開発を進めていく。

**（３）試験研究機関の課題、シーズの共有**

農業技術センター作物部　山田部長

現在、岐阜に合わせた再生二期作の技術開発、朝日の夢寿の品質低下に対しての育種事業をしている。来年度以降はドローンの播種を検討。ドローンは果樹部の農薬散布にも検討している。平地の大規模農家でも規模拡大が難しい状況、課題解決が必要。

昨年度米価の上昇、今年機械更新が盛ん。このタイミングに合わせ、スマート機械の更新を県や農協から提案できればよかったのではないかと思う。

中山間農業研究所施設園芸部　福田部長

中山間にあったカスタマイズが必要。全部をスマート農業で解決するのではなく、課題に絞った技術開発が必要なため、現在も研究に取り組んでいる状況。

農産園芸課　猪原係長

肥料高騰が農家の負担。岐阜県は環境にやさしい農家と応援したい消費を結び付け、循環型肥料を使うよう事業を進めていく。

高温により収量、収入の低下に対しては、清流のめぐみ等暑さに強い品種の普及を進めている。

農業イノベーション推進室　稲垣室長

中山間地域では建設業者等が耕作放棄地の活用を進めている。生産者で回らないため、農外企業も担い手の一つとして機械導入にイノベーション事業を活用するよう提案するなど、補助を進めている。